

## 平成27年度 学校評価報告書

学校名 皇學館高等学校・中学校

教育方針	【中学】 建学の精神を堅持し、豊かな知性、清らかな情操、強い意思力もち、国家社会に貢献する生徒を、6年一貫教育のもとに育成する。 【高校】 日本人としての正しい学問と高い教養をつちかうと共に、国際的な視野と豊かな感覚を備え、国家社会に貢献できる清純で気品ある生徒を育成する。
教育目標	<p>品格ある生徒の育成と学力の向上及び個性の伸長に努め、生徒一人ひとりの自己実現を図ると共に、教育内容・方法の改善により、真に楽しく安全で信頼される学校づくりをすすめる。</p> <p>このため以下の目標を定め、その実現に努力する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 訓育指導の徹底と人権・道徳教育の充実について、その方策を示し推進する。</li> <li>2. 授業の改善と相談機能の充実を期し、個々の生徒が持つ能力の向上と適正の把握に努め、希望進路の実現率を高める。</li> <li>3. クラブ活動環境の整備を図り、活力に満ちた活動の実績の向上に努める。</li> <li>4. 授業の公開、外部教育力の導入及び高大連携を推進し、教育力を高める。</li> <li>5. 保護者会、後援会との情報交流に努め、学校情報の公開を推進する。</li> </ol>

## (1) 学校教育基本計画における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
	<p>全教員による課題の共有化をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員研修会(年9回)の開催(高校)</li> <li>・教員研修会の随時開催(中学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が参加し、教員研修会を通じて、生徒の学習上の問題点・大学入試制度の変更や入試傾向、人権アンケート・学校評価アンケートの分析等をテーマに情報の共有や報告を行うとともに、昨年度行われた課題の洗い出しと改善策について、具体的に話し合った。(高校)</li> <li>・グローバル教育、ICTの授業への活用及びアクティブラーニングの先進事例の調査報告等の研修会を実施し、情報発信力のある生徒の育成をテーマに、それぞれの教科や部署で実際の授業において効果的な展開が図られた。(中学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月の高校教員研修会では、昨年度の《学力向上へ向けての取組と対策》をテーマを具体化し、《放課後の活用(課外、サテライン、授業サプリー等の利用～学力向上のために》のテーマで、グループディスカッション方式による全員参加型の研修会が行なわれ、対策等の共有化をはかる端緒となった。(高校)</li> <li>・研修会は、互見授業、研究授業、公開授業の後、毎回教員全員で検証した。又、校外の研修会に参加した教員による校内研究会の実施により、全教員の意識向上へのヒントとなっている。(中学)</li> </ul>

教員組織	<p>分掌単位での部会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年会を毎週開催する。(高校)</li> <li>・校務委員会で目標を共有化し、随時部会・学年会・教科会を実施(中学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年において、学習習慣の定着、学力向上策や生徒の社会性に関する情報の共有と課題の分析を継続的に言い、必要な施策を検討して実施した。(高校)</li> <li>・6年後の新入試制度を見据え、英語のネイティブ教員によるカンパセーションクラスの開設及び英語の4技能向上を目指して、リスニング、スピーキングを重視した授業を実施した。(中学)</li> <li>・英語力の強化。(中学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒の自宅学習の習慣づけと家庭学習の時間確保」の課題の改善が進まないため、更に検討を重ねる必要がある。</li> <li>・学校評価の「学習チェックシートは役立っている」は、前年度(46%)であったが平成26年度は(56%)に改善された。しかしながら、さらなる評価の向上のため、次年度もその改良を図る。(高校)</li> <li>・生徒が英語を使うことの抵抗が少なくなり、楽しさに目覚めてきている。コミュニケーションツールとして英語を考えるようになった。(中学)</li> </ul>
	<p>教科会の実施と指導技術の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎週定時に教科会を実施する。</li> <li>・互見授業を隔月実施する。(高校)</li> <li>・年度ごとにテーマを決めて、互見授業・研究授業を実施し、そのつど教科会と全体の研修会を行う。(中学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科会で課題・指導技術の共有、反省点を確認した。</li> <li>・互見授業後、指導技術の向上に関する意見交換会を行なった。(高校)</li> <li>・今年度はグローバル教育、ICTを活用、アクティブラーニングをテーマに、先進校事例の視察報告及び研究授業を実施した。(中学)</li> </ul>	<p>各教科において、学力定着のため、教材の工夫がおこなわれたが、平成26年度に引き続き予・復習の習慣が定着するに至っていないことから、更なる工夫を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度講座における授業展開に更なる工夫が必要。</li> </ul>
	<p>教員面談の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートの結果に基づき評価が一定水準以下であった教員(6名)に対し校長が面談を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改善結果が芳しくない教員に対しては、教頭との面談を追加することとしたが、前年度より改善されており教頭の面談を行わなかった。</li> </ul>
	<p>教員の採用人事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な教員の欠員補充の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教員補充については、適格者の採用には至らず、予定の人員補充ができなかった(3名)。</li> <li>・英語以外の各教科において、将来の必要人員を見越した新規及び再任用教員の補充を行い、充実が図られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期計画による将来人員、年齢構成を考慮した補充を、今後とも行なう。</li> </ul>

	<p>人権道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権意識アンケートを定期的実施する。</li> <li>・人権意識アンケート、人権講話、人権教育計画の実施などを通じて、充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校は、人権アンケートを5月(1年)、12月(3年)に実施、中学校では、新入生を対象とした人権意識アンケートを5月に実施し、生徒の状況把握、いじめの実態把握への対応を図った。</li> <li>・人権教育講演会、人権学習(1,2学期)等により、人権意識の啓発と向上を図った。(高校)</li> <li>・昨年度の人権大学の受講者による報告等により人権教育の前進を図った。(中学)</li> <li>・人権学習を実施(7月、12月)した。(高校)</li> </ul>	<p>アンケート結果によれば、「言葉でいやな思いをした」の項目が、15%(H24年)→10%(H25年)→9%(H26年)→7%(H27年)と減少している。教育相談部と学年との連携を一層深めていく。</p>
<p>教育活動</p>	<p>6年一貫教育プログラムの再検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年間を通じた実力養成講座として、従来の習熟度別講座を改編し、上位層に対する発展的授業の前進と、応用力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生のほか、在校生の一部を含めてS講座(習熟度編成による上位クラス)を開設、同講座生を対象に全国模試受験(Z会模試)や対策講座を実施し、また、英語力強化のために、英会話講座やENGLISH CAMPを実施した。(2年目、中学)</li> <li>・6年一貫のS講座を軸とする発展的な実力養成講座を高校課程にも先行導入し、高校1年に実施した。</li> </ul>	<p>中高一貫教育の高校部分においてもS講座の固定化等、内容の検討が行なわれたが、S講座以外の生徒に対する指導内容を含め、保護者に十分に説明し理解を得る必要がある。</p>
	<p>ICTの活用拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部主催の各種研修会に参画し、効率的な活用法等について、授業への運用及び展開を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校は、3号校舎で無線LAN環境を整備し、授業可能な空間を生み出した。</li> <li>・中学は、無線LAN環境が整備され、授業におけるICT機器の本格活用をスタートした。</li> <li>・デジタルテキストを活用した授業が教科単位で始まり、研究授業で活用方法等について逐次発表し、意見交換を行った。</li> </ul>	<p>研究授業の発表教員等では効果的な活用が実施されているが、教科によっては有効活用方法の研究が不十分な状況にある。</p>
	<p>学校案内・HPの更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内を一新し、本校のレイアウトを工夫する。</li> <li>・HPの逐次更新をはかり、情報発信の積極化に努める。</li> </ul>	<p>昨年度、学校案内、HPを一新し、大学・高校・中学の画面構成コンセプトを共通調整し、各部門で更新に意をはらった。アクセス回数については、月平均で高校が約7,100ユーザー、中学校が約1,100ユーザーに達している。</p>	<p>本校の情報をよりわかりやすい形でタイムリーに広報するため、今まで以上に日々の更新、情報発信に努めることが必要である。</p>

<p>入試広報 関係</p>	<p>積極的な広報活動 ・オープンスクールの実施 ・小中学校・塾への学校訪問等の実施 ・県内中部地域からの志願者増を図る。 《募集定員の確保》</p>	<p>・高校・中学校一体のオープンスクールが8月に実施され、高校1,163名、中学67名の参加があった。計3回のオープンスクール合計参加者数は、高校1,700名、中学校186名となり、中学校は減少した。 ・昨年度に引き続き中学校・塾への訪問、塾との懇談が実施され、小学校訪問募集活動が実施された。 ・受験生生徒数は、高校では昨年度より17名増加し1,386名であったが、中学校では52名減少の72名であった。 《高校は387名、中学校は38名の入学生を確保した。》</p>	<p>・小学校を訪問し、入学した生徒の学校生活の様子や成果などの情報を提供していくことを通して、小学校との関係を継続して築く必要がある。(中学) ・伊勢地域内での生徒数減少に対する歯止め策の検討を行なっているが、中勢地域からの受験生確保対策について、継続性ある努力を必要とする。(中・高共通)</p>
<p>進路指導 関係</p>	<p>大学進学実績の向上 ・受験特化コースの設定と充実を図る。 特進、6年制は週3回の7限授業、英語・数学の強化を図る。 ・実力強化補習、サテライン講座を実施する。 ・学習合宿の実施</p>	<p>・特別進学(6年制を含む)コース専用のカリキュラム開設(平成25年度より) ・進学コース…課外授業、学力補充による、生徒個人々の関心・適正に応じた指導を行った。 ・特進コース…課外授業、学習会、学力強化補習授業等を実施した。</p>	<p>多様な進路希望や放課後のクラブ活動に対応するため、平成27年度入学生より、進学コースにおいて、特進・6年制と比較し、7限授業を特進・6年制より週2時間減じ、生徒の活発なクラブ活動の展開が可能となった。</p>
<p>進路指導 関係</p>	<p>学年別進路指導の明確化 ・学年別の進路講話・個別面談等を実施し、進路意識の早期確立を図る。 ・大学受験の多様化に対応し、現役合格をめざす。</p>	<p>・学年別に進路指導計画を策定、実施した。 ・保護者に対し、進路講演会を実施した。 ・進路講話、就職・公務員ガイダンス、オープンキャンパス案内など、予定通りに実施した。 ・“Wish”(進路部発行情報紙)を、ほぼ月1回の割合で発行した。</p>	<p>生徒の進路意識の向上を目的とした、生徒自身が能動的に考えられるキャリア教育等の実施検討が必要である。</p>
<p>進路指導 関係</p>	<p>国公立大学合格に向けた指導 ・国公立大学に合格できる学習環境・進路指導を推進する。 《国公立大学20名以上合格》 ・国公立大学の入試対策セミナーへ教員が積極的に参加し、生徒への指導を行う。</p>	<p>・代ゼミサテライン(87名)、センター試験・国立2次・私大入試対策模試の実施の他、全生徒に対して進路ガイダンス、本校主催の大学入試説明会を実施した。</p>	<p>・国公立大学の合格者は14名に留まった。 ・夏季課外授業、ハイレベル課外授業など、大学進学対策として実施している諸事業に参加する生徒増を図るとともに、希望生徒の受験サブリ利用等の検討を行う。</p>

訓育関係	<p>訓育指導の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題の予防教育の実施</li> <li>・身だしなみ・生活習慣の指導</li> <li>・挨拶の励行(社会的な規範意識の向上)</li> <li>・交通マナーの向上(交通事故防止)に注意を喚起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校は、人権アンケート、人権学習、中学は、いじめに関するアンケートにおいて、いじめ問題を取り上げ予防教育を実施した。</li> <li>・全校集会等において、身だしなみ、挨拶の励行、交通マナー等を指導した。</li> <li>・体罰に対する生徒・保護者からの訴え等は無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、事象前の抑止効果は働いている。</li> <li>・SNS、Web上への書き込みなど、ネット空間での事象把握について、教員間にも注意喚起を図った。</li> <li>・「いじめの早期発見・早期対応・防止対応マニュアル」の改訂版を作成した。</li> </ul>
	<p>強化指定クラブの再編、強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国大会に出場するクラブを増やす。《3クラブ以上を目指す》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強化指定クラブに対する特別措置(特待生制度、外部指導者の配置)を継続した。</li> <li>・強化指定クラブは、バレーボール(男子)、バスケットボール、柔道、剣道、陸上、弓道、卓球、バドミントン(いずれも男女)、野球、吹奏楽の各部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強化クラブの試合等の成績結果を追跡し、再編を検討している。</li> <li>・全国高等学校総合体育大会に、団体・剣道部(男)、個人・バドミントン部(女)、剣道部(女)、卓球部(女)、弓道部(男)が出場した。</li> <li>・三重県の強化指定運動部として、銃剣道部、バドミントン部(女子)が選ばれた。(平成26年度)</li> </ul>
教務関係	<p>授業改善</p> <p>生徒の学習意欲を高め、興味を引き出させる授業を行う。</p> <p>《授業アンケートにおいて、総合的に満足しているに対する満足度を4.0(5段階評価)以上を目標》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートを実施(6月、11月)した。</li> <li>・教科会(毎週)による授業進度の調整並びに授業方法向上等の情報交換が行われた。</li> <li>《授業アンケートにおける満足度 6月 総合:4.27(対前年0.11増)、1年:4.35、2年:4.11、3年4.36、11月 総合:4.24(対前年0.12増)、1年:4.24、2年:4.11、3年4.41(高校)》</li> </ul>	<p>全体的には高評価であったが、評価が低かった「予習・復習の実施、内容に興味や関心」の設問項目について、改善策を継続検討する必要がある。</p>
	<p>学力の定着と向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習チェックシートの活用(高校)</li> <li>・朝テストの実施(高校)</li> <li>・表現力講座の実施(高校)</li> <li>・朝スタの実施(中学)</li> <li>・スクールライフの活用(中学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年生に対し、毎日学習チェックシートを提出、学習習慣の定着等を図った。(高校)</li> <li>・火～土曜に、朝テストを実施し、基礎学力の定着を図った。(高校)</li> <li>・“朝スタ”におけるビブリオバトルの実施や総合学習においてプレゼン能力等の向上を図った。(中学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による学校評価アンケートにおいて、「学習チェックシートが役立っている」の設問項目の評価が低かったことについて、学年等でチェック回数を増やし、きめ細かな指導を行う等の改善策を検討している。(高校)</li> <li>・朝スタを単なる読書から、読んだ本の紹介に変更し、プレゼン能力の伸長を図る。(中学)</li> </ul>
図書関係	<p>生徒の読書意欲を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「図書だより」を毎月配布し、書棚のレイアウトを工夫した。</li> <li>・ビブリオバトルへの生徒参加、年間多読賞の表彰などを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による推薦図書、ポップの作成の投げかけなど、図書委員の積極的な企画参加を図る。</li> </ul>

<p>国際交流</p>	<p>国際交流 ・姉妹校であるローズヒルセカンダリーカレッジとの相互交流の円滑な実施(高校)</p>	<p>・第2学年11名の生徒が、7月20日～8月2日の2週間、ローズヒル校を訪問、語学研修及び交流を実施した。一方、ローズヒル校から、5月21日～26日に、生徒15名が来校し交流を行った。 ・交換留学生として、スウェーデンからの留学生を1年間受入れ、生徒同士の交流と相互理解が深められた。 ・中学校では、ローズヒルの生徒とのスカイプによる交流が始まった。英語の理解力・表現力の向上と国際的な視野を広げることを目的としたカナダへの海外短期語学研修が実施され、生徒25名が参加した。</p>	<p>・語学研修は毎年、多くの希望者があり、受け入れ者数増等を図る検討が必要である。(高校) ・平成28年度入学生より、3年次修学旅行を海外(グアム)とすることが決定。これによりグローバル教育の3か年計画が完成予定。(中学)</p>
<p>組織運営</p>	<p>保護者会、後援会同窓会との連携 ・保護者懇談会、学年通信等を通じた連携 ・保護者に対する授業公開の積極的実施(高校) ・授業参観と保護者対象の講演(教務・進路・訓育関係)を実施(中学)</p>	<p>・保護者懇談会、学年通信等により情報の積極的発信を行った。 ・授業公開を5月と11月に全クラスで行い、5月は101名、11月は46名の出席をみた。(高校) ・授業参観と同日に学年懇談会や外部講師による進路講演などを行った。全保護者の9割以上の方に出席していただいた。(中学) ・10月14日、15日の5・6限をアクティブラーニング・ICT・グローバル教育をテーマに授業公開を実施し、約70名の参加を得た。(中学)</p>	<p>授業公開、授業参観の積極的実施や学年通信等の充実を図り、前年度と比較し出席増をみたが、保護者等との意見交換の機会増について、さらに検討すべきである。</p>

施設設備	<p>安全で快適な施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動や部活動で使用する施設の安全性確保を徹底する。</li> <li>・古くなった学習机・椅子の廃棄と新規購入。</li> <li>・節電・節ガス・節水の徹底を図る。《前年度の5%削減》</li> <li>・避難・防災意識の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険箇所の確認等を行った。</li> <li>・中学校校舎の一部改修及び学習机・椅子の更新を行った。(中学)</li> <li>・節電・節水等についての啓発文書を配布のほか、節電、節ガスについては昨年度の省エネ機器への更新(空調、照明機器更新)もあり、好結果を得ることができた。</li> <li>・避難訓練の実施(9月)、防災研修、非常時食料の備蓄(4年目/5年計画)、防災用品の備蓄(完備)を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節電・節水等についての啓発活動を継続し、削減目標を達成できなかった節電については、使用されていない教室の消灯等を徹底する。</li> </ul>
社会連携・社会貢献 地域活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路清掃活動ボランティアの実施(高校)</li> <li>・車椅子ボランティアの実施(高校)</li> <li>・五十鈴川周辺美化運動の実施(中学)</li> <li>・英語スピーチコンテストの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校友会及び有志生徒、約140名が、本校から五十鈴川駅までの通学路の清掃活動実施(10月23日)の他、車椅子ボランティア活動等に年間で21件、94人が参加した。(高校)</li> <li>・10月12日に生徒25名が参加し、五十鈴川周辺の美化活動の他、年間で3件、83人がボランティア活動へ参加した。(中学)</li> <li>・英語スピーチコンテストを8月22日に実施し、地域の小学生52名、中学生26名の参加をみた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア意識の高い生徒が社会奉仕活動を通して、地域の環境美化に貢献したが、参加者増を図るための検討を必要とする。</li> <li>・英語スピーチコンテストは、毎年、参加者数が増加しており、本校が地域の小中学生に行なうサービスとして定着した。</li> </ul>
管理運営・財政	<p>安定的な入学生数の確保、人件費の抑制、経費削減等により、高校・中学合計の帰属収支差額をプラスとする。</p>	<p>平成27年度決算では、基本金組入前当年度収支差額が高校プラス5千万円、中学マイナス1.3億円であった。(退職給与引当金等による影響)。</p>	<p>募集定員の入学生数確保及び経費の削減を行い、高校・中学部門合計で基本金組入前当年度収支差額プラスとなるよう、人件費・経費支出の削減策を継続検討していく必要がある。</p>

(2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況

強 み	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育方針・教育理念は日々の教育に生かされており、教員が生徒の成長を熱心に支援する体制ができている。</li><li>・部活動の指導体制が充実している。</li><li>・夏季課外/冬季課外/面接指導等、進路希望の実現に向けた指導体制が整っている。</li><li>・リスクの軽減に向けて取り組む体制ができている。</li></ul>
弱 み	<ul style="list-style-type: none"><li>・各学年、分掌・教科に方針や施策展開が委ねられることが多く、一貫性を欠く体制となっている。</li><li>・教員間のコミュニケーションと連携が不足している。</li><li>・学校経営について、マネジメントサイクルを回しながら改善を図っていく仕組みが整備されていない。</li></ul>



(3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数>	4回
実施内容	<p>①第1回皇學館高等学校・中学校関係者評価委員会(平成27年7月14日開催) 年間の行事予定、目指す学校像・教師像、中長期目標、平成27年度の学校及び各部の教育目標・重点目標の説明、及び平成26年度自己点検結果報告、学校満足度調査結果、授業アンケート結果、クラブ活動、国際交流、財務状況等の報告 体育大会(中・高)、文化祭(皇高祭、皇中祭)及び皇學館高等学校吹奏楽部の定期演奏会について、委員に出席の案内</p> <p>②第2回皇學館高等学校・中学校関係者評価委員会(平成27年11月20日開催) 学校改善関係、行事、進路指導状況、保護者への通信、訓育・グローバル教育関連等、授業アンケート報告等の中間現況報告を行う。</p> <p>③第3回皇學館高等学校・中学校関係者評価委員会(平成28年1月21日開催) 高等学校・中学校が行った自己点検評価の中間評価について報告し、意見をうけた。</p> <p>④第4回皇學館高等学校・中学校関係者評価委員会(平成28年3月24日開催) 学校評価報告書についての意見交換を行い、今後の改善方策を検討した。 成案を得た報告書を設置機関(学校法人皇學館全学自己点検・評価委員会)に提出し、保護者や地域に公表の予定</p>

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・中高一貫教育の高校部分の明確化に努力いただき、さらなる中高の縦の連携強化を図ってほしい。(昨年度に引き続き)</li><li>・大学との連携強化を求めたい。(生徒・保護者に対する授業公開は高校に対して行われているが、中学校保護者にも公開を。大学の図書館は、高校生徒に開放されたが、さらなる連携の模索を。)</li><li>・大学のオープンキャンパスに参加しやすいよう、終業式等の日程の調整を。参加できない生徒用に、進路室等でオープンキャンパスの資料等を収集し、保護者にも閲覧可能にしてほしい。</li><li>・満足度調査において、後輩にも皇学館高校を進めたいの比率を高める必要がある。進めたくない場合の理由を調査いただきたい。</li></ul>

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
関係者評価を真摯に受け止め、中高の縦の連携強化、保護者への案内方法の改善、中学校の募集方法の更なる改善(一部は平成27年度募集で改善済み)に努める。